

少年野球の発祥

さくらだ てつのすけ

桜田 鐵之助 と 南檜岡倶楽部



済々義会は「南檜岡倶楽部」を結成し、野球にも熱心に取り組んでいる。その中心が桜田鐵之助(1871-1940)であった。

教員であった桜田鐵之助は、教育に野球を取り入れた秋田県における第一人者でもある。明治29(1896)年から明治34(1901)年まで南檜岡小学校に勤務し、野球を研究し指導した。



済々義会々誌 第11号 明治32年7月31日

第10号で出された学生部への文題「仕合を申込む文」に対する投稿で、野球の試合を他校に申し込む12才の少年の文章が掲載されている。架空の試合の申込みであるが、この時期、南檜岡尋常小学校に限らず、近隣の小学校においても生徒たちが野球の練習をしていたことがわかる。下線のあとの()は、済々義会々誌の編集担当者による添削である。

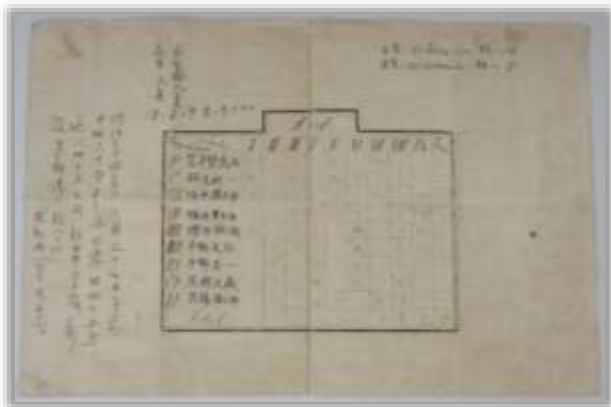
渡部分水家資料



済々義会々誌 第10号 明治32年5月31日

明治32年5月頃に、南檜岡尋常小学校の職員が中心となって、近隣57校を連合した野球倶楽部を組織したことがわかる。以後、倶楽部に属したチーム対抗の試合が行われていった。

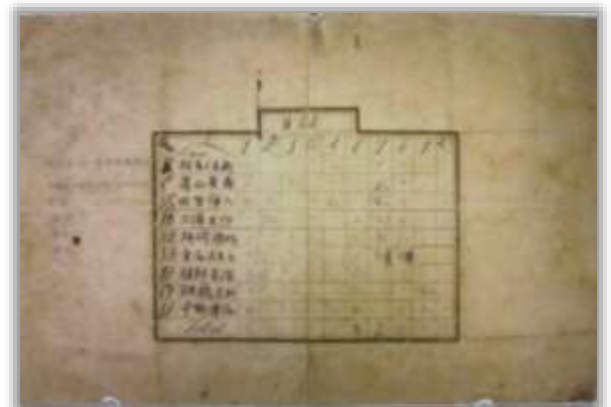
渡部分水家資料



野球スコア 明治34年9月27日

明治34年9月27日に行われた秋田挑戦杯の第3回大会のもの。南檜岡倶楽部と秋田中学が対戦し、9対18で秋田中学が勝利している。のちに神宮寺に少年野球を広めた富樫武治や桜田鐵之助の名が見える。

渡部分水家資料



野球スコア 裏面

とがし たけじ
富樫 武治

明治 15 (1882) 年、神宮寺の伝五郎家に生まれる。父が三菱鉱山の技師であったため、任地の都合で秋田師範付属小学校、神宮寺小学校、東京の文海小学校と転校を重ね、東京の郁文館中学校を経て東京数学院を卒業した。富樫武治は郁文館中学校時代に野球の知識・技能を身に付けたという。

明治 32 (1899) 年 4 月、17 歳の時に南檜岡尋常小学校に代用教員として赴任し、教師と補習科生徒の混成チーム「南檜岡倶楽部」に所属する。投手として活躍し、富樫が投げるドロップやシュートは魔球と呼ばれた。県内最古のスコア (明治 34 年) にも南檜岡倶楽部のピッチャーとして名前が見える。

明治 35 (1902) 年から明治 37 (1904) 年まで神宮寺尋常高等小学校に勤務し、子ども達に熱心に野球を教えた。選手に任命状を手渡す任命式を行い、手渡された生徒たちは、歓喜と興奮で顔を紅潮させたという。



秋田中学対大館中学 野球試合記念写真
(大正元年 10 月撮影)

渡部分水家資料



渡部分水家資料



渡部分水家資料



神宮寺倶楽部のベンチと観客 (大正頃)

細谷譽治ガラス乾板資料

大正元 (1912) 年 10 月に行われた野球の試合の写真。左の 2 枚は、秋田中学対横手中学の試合の様子。下の写真のバッターは渡部郁太郎。南檜岡小学校の生徒時代から野球に親しみ、秋田中学時代に捕手として野球に打ち込んだ様子が見て取れる。南檜岡小学校教員になってからも野球を続けている。

明治の球児 当時を語る

明治36(1903)年、神宮寺尋常高等小学校では、教員であった富樫武治の発案により選手に任命状を授与しています。任命状を受けとった一人である渡部弥八郎さん(明治23年生まれ)は、当時の思い出を次のように語っています。昭和49(1974)年発行の『神宮寺のはなし』(高橋周蔵編著)から紹介します。

「野球第一選手中堅ヲ命ス」

私等高等4年の時のメンバーは佐々木誠亮が捕手、私は投手、高橋鉄治がファースト、佐々木和一郎がセカンド、(中略)監督は富樫武治さんで、この人は神宮寺の人だが、南檜岡の先生をしていて野球をやり神宮寺へ転任してきて野球を教えました。毎年選手に任命状を渡す式をやり、これをもらう時は歓喜と興奮で顔をほてらしたものでした。

家業優先の時代に

私等より2級上はじょうずな人たちが多かった。サードをしていた新町の前田時治、投手は本郷の佐々木鉄治という、とてもまい人であったが、家が農家で常に手伝いで忙しかったが、どこかと試合となると必ず迎えに行った。「男の末っ子で百姓仕事になれさせねば」と家人はいったが、ピッチャーの継手がないためどうにもならなかった。

私の家でも家業の蹄鉄やカジ屋で忙しかった、(中略)「野球やってママ食ってゆけるか」といわれるのがつらかったので、朝は一時間も槌討(トンテンカン)をやってできるだけ手伝ってから学校に行った。しかしそうした中にも父は理解があって、私をすじ向いの夜学塾に通わせてくれた。

足はもちろんハダシ 用具は小遣いを積立

私の野球の頃は14・5才の時です。捕手はミット、ファースト・セカンド・サードは固いグローブ、それは皮の手袋に球よけのため三日月型に切った皮をもう一枚はり足して痛くないようにしたものでしたが、それでも相当痛かったものです。あとの人たちはみんな素手で球をつかみました。服装も普通の仕事着で足はもちろんハダシです。注意していないとナマ爪をはがしたり、よく指の付根などに肉裂けができて苦勞しました。

役場では予算がなかったし、ミット、グローブを買ってもらえず、全校生徒に強制しなかったが多くの人たちが1日に2厘ずつ、金のある人は5厘ずつ出し合ってしばらく積み立てて物を買いました。

(1円=1,000 厘)

見に来てくれることは何よりの励み

野球を見に来てくれた人はいつも佐々木広之輔さんのお父さんだけでした。見に来てくれるということは何よりの励みになりました。

その後、大正13年あたりになると、よく町中応援に来ていたと思います。小西清造さんは郵便局長でしたが、大の野球好きで試合があれば頼まれてユカタを着たまま、尻端折(はしよ)りて出て審判を引き受けたし、富樫ツル子さんも娘テイ子さんをつれて観戦にきていました。娘さんはモダンな服装でパラソルをさし、応援団を引き受けたツル子女史とよく欠かさず来ていたものでした。



**第4回全県少年野球大会神宮寺小Bチーム(尋常科)
連続優勝 大正13年**

細谷譽治ガラス乾板資料



任命状 明治36年7月20日

富樫武治が発案して、子ども達に手渡した選手任命状。第一選手はレギュラーのことか。この年、渡部弥八郎は中堅(センター)を命じられたが、翌37年は投手(ピッチャー)を任命されている。

かみおか嶽雄館所蔵

バット 大正

渡部郁太郎が秋田中学時代に使用していたバット。

渡部分水家資料

野 球 年 表

年 代	内 容
明治32（1899）年頃	南檜岡小学校職員（富樫武治氏）が主唱し、近隣57校を連合し野球クラブを組織する 少年野球が南外村に定着し始める 南檜岡小学校補習科生徒17名が秋田市各学校参観の際、秋田師範学校中学生と公園において野球試合をする
明治33（1900）年	仙北西部野球クラブが組織され「チャンピオンフラッグ（優勝旗）」争奪試合が強首村大巻野会場（現西仙北地域大巻）で行われる ○及位小対×北檜岡、×南檜岡対○旭、旭がチャンピオン
明治33（1900）年	南檜岡小学校教員と補習科生徒の混成チームが秋田に遠征し、秋田中・秋田師範と試合し勝つ
明治33（1900）年	南檜岡野球倶楽部秋田に遠征。6月17日・18日、南檜岡倶楽部28対第一中学25、6月19日、南檜岡倶楽部21対秋田師範20、秋田県知事からチャレンジカップ贈呈される「本県の権威ある野球のはじまり」といわれる
明治34（1901）年	町の財産家の小西聡太氏が中川原の土地を町に寄付し野外運動場を設置 横手中学校（現横手高校）野球部が神宮寺小学校の裁縫室に合宿し練習をした
明治35（1902）年	神宮寺尋常高等小学校高等科3・4学年13名、秋田市へ修学旅行、秋田高等小学校、土崎小学校と野球試合を行う
明治36（1903）年	神宮寺尋常高等小学校で、野球選手に任命状を授与、野球を教育活動の一環とし、「学齢にある少年の野球」と明言した証左で少年野球の発祥の地として内外に示し、以来、野球は神宮寺小学校に定着していった
明治38（1905）年	早・慶戦時代始まる 6大学・東都大学リーグ戦始まる
明治42（1909）年	野球「挑戦杯」の弊害をあげ廃止を厳令
大正4（1915）年	第1回全国中学校野球大会（のちの全国選抜野球大会）が開始 決勝戦で秋田中が京都二中に1対2で惜敗
大正8～9 （1919-1920）年	神宮寺倶楽部という社会人野球チームが組織される 「挑戦杯」の復活大会決勝で神宮寺倶楽部が秋田電気会に0対1で惜敗
大正10（1921）年	第1回全県少年野球大会に12チームが出場（秋田市旭クラブ主催） 会場：秋田市橋山グラウンド 城西小学校優勝
大正12（1923）年	第3回全県少年野球大会（秋田市旭クラブ主催）27チーム参加 この年から、高等科と尋常科に分かれての開催となり神宮寺小尋常科チームが初優勝
大正13（1924）年	第4回全県少年野球大会（秋田市旭クラブ主催）で神宮寺小尋常科チームが優勝
大正14（1925）年	第5回全県少年野球大会（秋田市旭クラブ主催）で神宮寺小高等科チームが優勝
昭和元年（1926）年	第6回全県少年野球大会（秋田市旭クラブ主催）で神宮寺小尋常科チームが優勝
昭和2年（1927）年	第7回全県少年野球大会（秋田魁新報主催）で神宮寺小高等科チームと神宮寺小尋常科チームが準優勝
昭和3年（1928）年	第8回全県少年野球大会（秋田魁新報主催）で神宮寺小高等科チーム優勝し全国大会出場（東京）

年 代	内 容
昭和7年（1932）年	政府による野球統制から一時中断
昭和21（1946）年	第12回全県少年野球大会（秋田魁新報主催）で神宮寺国民学校高等科が優勝
昭和22（1947）年	文部省「野球統制令」廃止 接收中の甲子園球場の使用許可により、全国選抜中学校野球大会が復活する
昭和25（1950）年	大曲仙北中学校神岡新人野球大会始まる
昭和34（1959）年	尋常科野球を引き継ぐ学童野球大会が復活（神岡町主催、秋田魁新報社後援）
昭和38（1963）年	大曲農業高校、春の全国高等学校野球選手権大会出場（2回戦敗退）
昭和53（1973）年	500歳野球紅白試合が神岡町中川原グラウンドで開催
昭和54（1979）年	第1回全県500歳野球大会（この年から秋田魁新報社主催）、8チーム参加し、中川原グラウンドで開催
平成元（1989）年	財団法人 野球体育博物館（現・野球殿堂博物館）に「嶽の球史」を寄贈
平成3（1991）年	魁星旗争奪全県550歳野球大会、12チーム参加し、山村運動広場、南外中グラウンドで開催（第1回）
平成5（1993）年	神岡町で野球が始まって90年、全県500歳野球15周年
平成8（1996）年	かみおか嶽雄館が竣工し、館内に「野球資料館」がつくられる
平成27（2015）年	大曲工業高校、春の全国高等学校野球選手権大会出場（2回戦敗退）
平成28（2016）年	大曲工業高校、夏の全国高等学校野球選手権大会出場（1回戦敗退）
平成29（2017）年	第1回全国500歳野球大会、大曲球場を主会場に市内5会場で開催
平成30（2018）年	第40回全県500歳野球大会（秋田魁新報社主催）182チーム参加
平成31（2019）年	第41回全県500歳野球大会（秋田魁新報社主催）180チーム参加 決勝進出した2チームが2020年に開催の第4回全国500歳野球大会出場権を獲得する
令和2（2020）年	2年間新型コロナウイルス感染症拡大影響のため、全県500歳野球大会、全県550歳野球大会、全国500歳野球大会が中止となる
令和6（2024）年	甲子園球場100周年

出典：『神岡町史』『南外村史』『神宮寺のはなし』『嶽の球史 少年野球選手名簿』